

2014年度 前期	リフレクションペーパー
-----------	-------------

学科名	建築・デザイン学科							
科目名	住まいの計画							
科目区分	専門科目	単位数	2単位	開講時期	2年次前期			
必修・選択の別	選択必修科目(建築工学コース)／選択必修科目(建築コース)／選択科目(デザインコース)							
担当者	益田 信也							
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な住宅タイプを学んで、住まいのあり方は多様であることを理解できる(A6、B4) ・住宅タイプそれぞれの成立背景を知ること、広い視野で住まいを観る力を得る(A6、B4) ・同時に、今後の住まいのあるべき姿を考え、構想する力と問題意識を身につける(A6、B4) 							
日程と内容	<p>4/11 導入講義：授業の進め方と概要の説明、成績評価の方法／住まいの変化の要因</p> <p>4/18 農村住宅：住まいと集落景観、屋敷の構成と機能、住宅と生産活動、住宅の社会性</p> <p>4/25 町家：高密度居住のしくみ、生業と家族生活、町なみの形成と変容、町なみの保存</p> <p>5/2 長屋・アパート：密集する下町の住まい、住まいの開放性、同居と近居、定住と流動</p> <p>5/9 中廊下型住宅：伝統的な住様式、家族本位の近代化と封建制、住宅改良運動</p> <p>5/16 作家住宅：建築家と住宅設計、新しい生活像の提案、作品例の分析・考察</p> <p>5/23 都市型住宅：商品化住宅、伝統とモダンリビング、公私室型住宅とLDK構成</p> <p>5/30 地方の住まい：地方の戸建住宅、都市型住宅との比較、続き間座敷の機能と意味</p> <p>6/6 漁村住宅：高密度居住と路地空間、間取りの継承と変容、ムラづくりのシステム</p> <p>6/13 集合住宅（1）：集合住宅の系譜、住戸の近代化と定型化、多様化・変化への対応</p> <p>6/20 集合住宅（2）：定型化した団地の風景と設計基準、高密化と住戸の閉鎖化</p> <p>6/27 コーポラティブ住宅：居住者参加の集合住宅、住まいの管理</p> <p>7/4 これからの都市居住（1）：多様な家族像と居住サービス、高齢者住宅</p> <p>7/11 これからの都市居住（2）：協同居住、まちづくり</p> <p>7/18 これまでの授業の総括、定期試験に向けた総合演習と解説</p> <p>7/25 定期試験</p>							
成績評価基準	定期試験	60%	実技	0%	臨時試験	0%	部外評価	0%
	報告書・レポート	10%	プレゼンテーション	0%	課題	0%		
	演習	30%	計	100%				
授業到達目標の達成度	今年度は定期試験の受験生の88%が合格となり、昨年の72%よりかなり向上した。合格者の平均点は73.1点で、昨年の72点より若干上がっている。昨年は定期試験の成績が演習の得点と比べて低かったが、今年度はほぼ同じ73%であり、授業内容の理解度は進んだのではないかと判断している。概ね目標は達成できたと考えている。							
反省点	1限目に開講される時間割であったが、当初は欠席・遅刻が少なく受講態度は良好であったが、後半サッカーのW杯が始まった頃から急激に欠席や遅刻が増え、出席しても居眠りをしてしまう学生が多くなった。最終的に、定期試験を受験しない学生が15名になってしまったが打つ手はなかった。例年、レポートの採点が遅れ定期試験後になっていたが、今年は授業中に完了して返却し反省の時間を持てたことは良かった。							
来年度の計画	演習科目「建築設計Ⅰ」(住宅の設計)との連動を考慮し、一部教科書の章立ての順序を入れ替えることは、好奇心を高めてモチベーションを維持することに効果があり、今後も継続したい。また、講義回数が定期試験を含めて16回となり、特に終盤余裕のある授業計画につなげられたので、うまく活用して最新の話題等を盛り込んでいきたい。							
授業評価アンケートに対するコメント	総合評価は8.2点(昨年度8.0点)と少し向上し、いずれの項目も全科目平均値を上回ることができた。教科書の1章の内容は授業時間内で理解させるには多すぎることから、これに縛られず内容の削減を図ったことが理解を容易にし高評価に結びついたと思われる。スライドの事例を豊かに示すことに対して好印象を抱いている一方、量が多すぎると切り替えが早くなったり、後半の演習時間が不足したりして、不満が生じているので、内容の厳選がさらに必要である。							
履修登録者数	115名	定期試験 受験者数	100名	合格者数	88名	合格率	88%	